

「いたちかわらばんを読んで」
◎子供たちが環境学習、魚採りの体験等、昔は誰でもが遊んでいた川遊びが身近にあることは本当にうらやましいです。最近の川はコンクリートに囲まれて水辺に近づく事もできません。川は危険で中に入ってはいけないことを学校で教えているのが現状です。

いたち川が親水も考えて造られ、川の水に触れたり魚採りが出来ることを知り、うらやましく思いました。

◎子供たちの感想の中で「川にいる生き物は、川のおそうじ屋さんです」の言葉には、環境を悪くしているのは、私たち人間であることを改めて自覚させられ、これからは子供のお手本になるよう心掛けていきたいと思っています。

◎記事の中で地域の地層や地核変動について学習し、湧き水の箇所の疑問などを調査され、自然界をじっくり観察されていることに驚きを感じました。5月22日のウォーキングで写真にあった石灰石と堆積層の互層を観察できたことは、身近に自然界の神秘を思い馳せました。今後もかわらばんを愛読しウォーキングに参加していきたいと思っています。

【7月は全国河川愛護月間】

全国の河川を良好な環境に保全・再生するため、地域住民、市民団体等が主体となって、河川周辺の清掃活動を行う河川愛護月間が定められています。

栄区のシンボルリバーであるいたち川は、下流域では川の中を掘り込み水際部の自然を回復する区間と、上流域では自然の川の姿を生かした良好な水辺空間を創出する区間に分けて整備した結果、多くの動植物が生息し、市民に親しまれる環境河川となっています。維持管理については、当時に比べて草木が繁茂してきており、河川プロムナードや水辺の草刈り、樹木の剪定・伐採については、効率的・効果的に進めるため、適期を踏まえつつ計画的に実施しています。一方、ボランティア団体である水辺愛護会や区民の方々によって、いたち川やせせらぎ緑道、アメニティの環境を良好に保つため、草刈りや樹木の剪定、ゴミ拾いや草花の手入れなど多岐にわたってご協力を頂いております。

なお、栄土木事務所にて「水辺愛護会のつどい」を年1回開催しており、河川整備に関する情報提供や水辺愛護会相互の意見交換などの機会を設けています。会員の高齢化など課題もありますが、人材確保や作業の効率化に向けた活動支援などを行っています。

緑地や河川、水路などが良好に維持されていることで、栄区の自然豊かな居住環境が保たれています。
(栄土木事務所 下水道・公園係、道路局 河川管理課)

いたちかわらばん

通刊 79号 鮪川・狹川 / 川原番・瓦版 '18夏号



【版画 宗森英夫】 「大いたち橋から下流を望む (いたちかわらばん通刊 30号の復刻版)」

初夏のウォーキング
荒井沢のジャケツイバラ探訪記
ジャケツイバラは「蛇結莖」と漢字で書かれており、枝がもつれ合うさまが、蛇が絡み合っているように見えることから名前が付いたと言われています。
5月22日に荒井沢市民の森へジャケツイバラの鑑賞会を計画しましたが、今年はいつより半月早く季節が進んでいる感じで、5月10日頃に満開を迎えていました。当日は、残念ながらジャケツイバラの花を観賞することが出来ませんでした。来年できれば再挑戦したいと思っています。
荒井沢市民の森には早くも初夏の花が咲きだしてしました。桂台住宅の緑道を過ぎて長い階段(148段)の脇にはハコネウツギのピンクと白の花弁が迎えてくれました。荒井沢の林の中には、白色のウノハナ(空木)、黄色のコウゾリナ、白と黄色のスイカツラ(金銀草)が咲き、周辺に甘い香りを放っています。水路沿いには、白色の鶏の足に似たトリアシショウマが早々と咲き、6月〜7月中旬になると、ヤマユリやオカトラノオ等夏の花が楽しめるようです。
荒井沢市民の森の「極楽広場」では愛護会の方達から、今年で開園二十周年を迎えた経過や、荒井沢の地理、歴史、植生と愛護会の活動経緯などを聞きました。昔は「地獄谷」と呼ばれていた広場の名前を「極楽広場」にしたエピソードを聞くことが出来ました。
愛護会の方達によって、水田では近隣小学校5年生に米作りの体験学習として、田植え、稲刈り、脱穀等の指導や管理を行っています。「荒井沢市民の森愛護会」は貴重な自然環境を守り、自然の大切さを広く啓発する活動をしています。素晴らしい綺麗な森が次世代にも継続されるよう願っています。
(うめおきな)

☆秋のウォーキング募集☆ “瀬上沢の紅葉と秋の野草を観察しよう”

日時：平成30年11月13日(火)
本郷車庫前バス停 10:00(集合)~13:00(解散予定)
瀬上沢小川アメニティには、多くの植物が繁茂しており、瀬上池の紅葉と秋の野草を探索してみませんか。秋の七草の他に、タデやミゾソバの群落の中にサラシナショウマ、ヨメナ、ワレモコウ、ツリフネソウ、アキノタムラソウ等の花を観賞できます。
本郷車庫前(バス停)→岐橋→よこ堰→瀬上沢小川アメニティ→トンボ池→瀬上池(解散)→自由行動(いっしんどう広場→環状3号線→JR 港南台駅&本郷車庫前(バス停))
*雨天中止。中止の場合は、前日ご連絡します。

集合場所：本郷車庫前バス停
参加費：100円(保険料等)
持ち物：飲み物、雨具、お弁当
参加人数：20名(先着順)
参加要領：参加希望者は、葉書、メール、FAXで住所・氏名・性別・電話番号を明記の上、平成30年10月31日(水)までに下記に応募して下さい。(当日消印有効)
応募先：〒247-0005 栄区桂町303-19
(電話) 894-8161 (FAX) 894-9127
(アドレス) sa-kikaku@city.yokohama.jp
栄区役所区政推進課企画調整係担当



(ヨメナ)

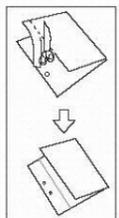
※内容については、和久井(いたち川 OTASUKE 隊、080-3498-0552)まで

発行：狹川 OTASUKE 隊 (いたちがわおたすけたい)

OTASUKE 隊事務局：栄区役所区政推進課企画調整係
〒247-0005 横浜市栄区桂町303-19
TEL 045-894-8161 FAX 045-894-9127
栄土木事務所 下水道・公園係
〒247-0007 横浜市栄区小管ヶ谷1-6-1
TEL 045-895-1411 FAX 045-895-1421
(お便り・お問い合わせはこちらまで)

発行年月
2018年07月
通刊79号

この部分を切り取ってファイルにすると便利です



切り取り線

初版「いたち川情報マップ」の紹介 第7弾!!

平成8年(今から22年前)に初版「いたち川情報マップ」発行!
いたちかわらばん 71号から順次紹介しています



〇いたち川情報マップ

このマップには、現在の地名や施設の名前などの他に史跡などを記してハイキングを楽しめるコースなどを紹介しています。

自生する植物や生き物のイラストを入れた説明文と保全の大切さを課題として提起しています。マップ中の文章を紹介いたします。

昔は右支川(瀬上沢)を上川(うわがわ)、今の本流を下川(したがわ)といった。上川は瀬上から水を集めて水量が豊かで、川に沿って竹後大通(ちくごおおどおり)と呼ぶ主街道が走り、家も並んでいた。さらに昔は、瀬上からの水は猿田のあたりで下川に流れ落ちていた。上川は田んぼに水を引くために整備した人工の川といえる。

栄区いたち川マスコット

タッチーくん



動植物の保護区域として人の立ち入りを禁止しているので安心。わき水のある谷で、4つの池があるんだ。水辺は変化しやすい自然なので、どう維持していくかは課題だね。

ホタル(瀬上沢)



6月には光の舞をお見せします。カワニナがすめる水を維持してほしいな。

タテハチョウ



ため池は川とはちがう生き物のすみかです。わき水を集めた澄んだ池に、落葉が積ると、自然も徐々に変わります。湿地の水辺には仲間が集まるよ。

アブラハヤ



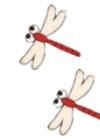
私たちは影のある流れが必要な、両側から木や竹がおおいかがぶり蛇行している川が、とても良い棲みかです。木陰の中の流れで生きる生き物たちは、たくさんいますから、大事にしてほしいな。

サワガニ



上流部や支流の小川ほど、コンクリートで固められたところが多く、すみかが減ったんだ。草木が生える小川の復活をかんがえてくれればなあ……。

トンボ(アキアカネ)



浅い溜り水はトンボの天国。ここは人の立ち入りを制限して保護してくれている。時間をかけて生態がどうなるか見守ってほしいな。

台湾リス



私のおじいさんは大島育ちな。船に乗ってきたかは知らないけど、今はたくさん仲間がいるよ。

カモ



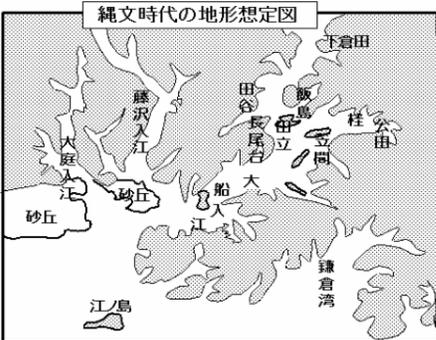
池にブラックバスなどを放つのは止めて。本来の生き物を大事にして楽しんでほしいな。釣り糸がからまる仲間の事故を知ってほしい。

昇龍橋



明治30年ごろつくられたと思われる今泉石(鎌倉石)のアーチ橋が残る。高欄は大正時代に御影石で作ったもの。古木や神社の跡が昔をしのばせる風景。

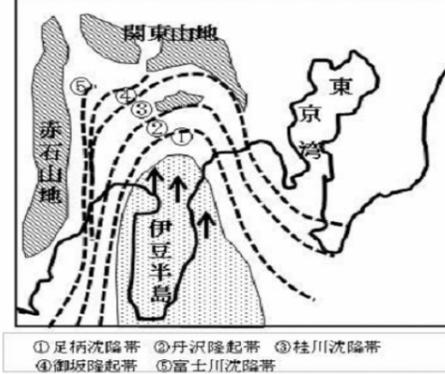
80号は、記念号としますので、次回のいたち川情報マップ裏面の中流域の史跡を含めた紹介は、81号からとなります。(水・人・子)



種々の条件が重なり、複雑な地形になっています。地震に深い関係のある断層とは、ある面を境にして地層にずれがみられる地層構造のことで、そのうち、過去数十万年前の間繰り返し活動し、将来も活動する可能性のあるものを活断層と言っています。活断層は三浦半島頭部に三本の活断層が確認されています。横浜市内には特に確認されていませんが、立川断層が横浜の北部地区まで深層部に連なっているのではないかと懸念されています。

栄区には谷戸、湧水、森、里山があり住み易い場所と思われ、この地形を利用していたち川周辺には縄文時代の遺跡が沢山残されていますが弥生時代の遺跡がほとんどないのは、その間に大きな地震が起きたと考えられています。

縄文時代は柏尾川に沿って海の入江が入りこみ公田まで海であったと言われています。



三浦半島は数百万年前の深海の地層で出来ています。横浜市南部の洪積層は地盤変動が少なかったため長沼層から下積層までの各間氷期の高海水面期(12m)に対応して堆積した海成層が不整合に複雑に堆積しています。

いたち川周辺(栄区)の地形

前号では湧き水と地層を説明しましたが、それに深い関係のある地震と断層について調べてみました。日本の周辺には、太平洋プレート、北米プレート、ユーラシアプレート、フィリピンプレートの4枚のプレートが重なり複雑な地形になっています。

太平洋プレートは年間最大10cmの速度で西の方に動くため、日本列島に対し東より西に向かう圧縮力が作用しています。(日本第四紀学会松田時彦著による)日本の西南地域ではフィリピンプレートが年間5cm程度の速度で南海トラフ(舟状海盆)に沈み込んでおり、このプレートにより北西方向に圧縮されています。これらのプレートの移動により地殻に加えられた応力によって地殻が破壊されると言われています。

伊豆諸島ならびに伊豆半島はフィリピンプレートに載っていたが、北北西への移動に伴い伊豆半島はかつて独立した火山島であったのが第四紀前半に本州と衝突したものと考えられています。

縄文時代末期の大地震によって隆起し、その後数回の地震の度に隆起を繰り返して現在の地形が出来たと考えられています。

飯島町の貝殻坂という地名も地表の貝殻が露出していたことから、その名残であると思います。(草本勝次)